

「環境・安全上健全であり続ける富士フィルム」 の実現を目指して



富士写真フィルム株式会社
代表取締役会長

大西 貴



代表取締役社長

宗雪雅幸

ご挨拶

きれいな水と空気が写真感光材料の生産には不可欠であることから、当社は1934年の創業以来「環境保全は企業経営の根幹をなす」との考えの下に環境保全に取り組んでまいりました。今日では「持続可能な開発」という言葉に代表されますように、地球規模の視点に立った環境保全が企業にとっても大きな課題になってきております。そのような意味で環境施策は、「創造的な技術開発」、「顧客重視のマーケティング」そして「生産・販売のグローバル化」と同じく、当社の基本的な経営課題と受け止めております。

当社では以下の三つ観点を基本に据えて環境施策に取り組んでおります。

- ・自然環境に対する配慮（人間と自然の調和）
- ・化学物質に関する安全の確保
- ・ソースリダクション（有限な資源を無駄にしないこと）

このような環境施策に取り組む上での当社の基本的なスタンスは、レスポンシブル・ケア（RC）の実現にあります。RCは、製品の開発から製造、物流、使用そして廃棄に至る全てのプロセスにおいて、企業が自身の方針、目標、基準そして責任において環境保全や安全確保を行っていくことを主旨とするものです。無論、法律などを遵守することはその前提となります。RCは世界の化学工業界が組織的に取り組む国際的な活動です。日本では1995年に日本レスポンシブル・ケア協議会（JRCC）が結成されており、当社はその設立と同時にRCの実施をJRCCに対し誓約し、会員になりました。この国際的な活動であるRCを、同じく世界標準であるISO14001に従った管理システムの下で実現していくというのが当社の基本的な考え方です。日本国内でISO14001認証制度が発足する前から取り組みを開始し、制度が実施された最初の時点（1996年度）で国内4工場全てが認証を取得いたしました。

RCでは、全てのステークホルダーとのコミュニケーションも重要な課題となります。環境レポートもその課題に向けた取り組みの例の一つです。1996年より毎年環境レポートを発行し、この2000年版レポートに至っております。別の事例をあげますと、1998年11月には足柄工場において「写ルンです」循環生産自動化工場の稼働を開始いたしました。これを一般の方々に公開するとともに、地域の小学校の環境教育にもお役に立てていただいております。おかげさまで「写ルンです」循環生産工場は、リユース・リサイクルという循環生産工場の先進的事例であるとの評価をいただき、日本工業新聞社主催の第8回地球環境大賞における「地球環境会議が選ぶ優秀企業賞」を、また日本経済新聞社主催の99年優秀先端事業所賞を受賞いたしました。さらに、当社現像液を使われるお客様には、取り扱い上必要な環境・安全に関する情報をお知らせするMSDS(Material Safety Data Sheet)を、1997年から当社ホームページで公開しております。

「緑の小箱に信用を詰めて売る」に象徴されるように、「信用」は当社の命です。環境保全に真剣に取り組むことも、お客様をはじめ地域の方々の「信用」を築き、保っていく上で非常に大切なことであると考えております。

当社は、我々経営トップの強いリーダーシップの下「環境・安全上健全であり続ける富士フィルム」の実現に向け、一人一人の社員、一つ一つの組織がRCに自主的・継続的に取り組んでまいります。

2000年3月